

やってみよう！ アメリカと日本の子どもたちの遊び

広島大学附属東雲小学校 吉浦 公子
島根県三隅町立岡見小学校 洗川 玲子
島根県大和村立大和中学校 永田 祐治

子どもたちにとって，“遊び”とは、最も生活に密着しているものであると同時に、毎日の生活に欠かすことのできないものである。“遊び”というものは、その地域や地方、そしてその国の文化（歴史や伝統ばかりでなく現在の社会の流れや考え方）を如実に反映しているものである。

わたしたちは、遊びを通して、自分たちの生活している地域や国及び外国の文化・歴史・伝統の違いを認識しその理解を図りたいと考えた。そして、広く世界に目を向けお互いの文化を尊重し合える子どもたちを育てていきたいと願っている。

したがって、教材開発をしていくに当たり、子どもたちの生活に最も身近な“遊び”を取り上げることにした。特に、アメリカ合衆国と日本の伝統的な“遊び”に焦点をあて、子どもたちの異文化理解の在り方を探ろうとした。

“遊び”に着目したのは

- ① 小学校と中学校の子どもたちの段階から、自然な形で異文化理解を図るためのよい方法であること。
- ② 遊びには、民族の歴史的、社会的、文化的な背景があり、それを知ることは、異文化理解に役立つと考えられること。

の二つの理由によっている。

教材については、日米における文化のよきを相互に紹介しあい、異文化理解のこれから望ましい在り方を探りたいと考え作成した。

教材の活用にあたっては、次のように考えた。

- 小学校の低学年においては日米の遊びを実際に体験することに重点を置く。
(遊び方を資料として添付)
- 小学校の中学年においては日米の伝統的な遊びを通して異文化の体験や理解を図る。
- 小学校高学年児童から中学校の生徒を対象にしては、社会科・英語科・学級活動などで異文化理解のために教材として活用する。(特に、中学校においては、歴史的・社会的・文化的な背景も考える教材として)

しかし、児童・生徒の実態や興味関心の方向を大切にしながら、教材の活用方法をよりよいものに変えていかれることを願っている。

さらに、日米両国の伝統的な遊びを挑戦することを通して、自国の文化の再発見することもできればと考えている。

ぼくは、長田 健 中学校2年生です。妹の理香は、小学校2年生。
今、ぼくたち2人は、アメリカ合衆国ノースカロライナ州のグリーンビルにいます。
昨日から、マクドナルドさんの家でホームステイをしているのです。マクドナルドさんの家は、お父さん、お母さん、中学校2年生のトミー君、小学校2年生のケイティちゃんの4人家族です。

1 ボーイス アンド ガールズ クラブで

今は、夏休みですが、お父さんとお母さんがつとめに出かけるので、ぼくと妹は、トミー君とケイティちゃんといっしょに、近くの「ボーイス アンド ガールズ クラブ」に朝からきています

<体育館で>

トミー 「ここは、夏休みや学校が終わったときに、子ども達が遊んだり、勉強したりするところだよ。幼稚園から高校生まで、いろんな子がいるだろ。」

健 「ほんとだ。ずいぶん、たくさんの子どもが来ているね。」

トミー 「一番多いときは、1600人位の子どもが集まっているよ。」

健 「ほんとうにたくさんの子どもがいるね
それに、こんなに色々な肌や髪の色の人を一度に見たのは、初めてだ。」

トミー 「健君の日本の友だちは、みんなよく似た肌の色や髪の色なの? ぼくの友だちは、みんな肌や髪や目の色は違っているよ。」

健 「そうなのか。あれ、『なわとび』をしていると思ったら、2本を組み合わせて、すごいな!」

トミー 「『ジャンプロープ』のことだね。1本でもやるけど、2本を組み合わせる遊びは、みんなよくやってるよ。となりの部屋で、『マンカラ』をしない?」

健 「『マンカラ』? 初めて聞く名前だ。やり方を教えてよ。」



(ボーイス アンド ガールズ クラブで
いろいろなことをしているね)



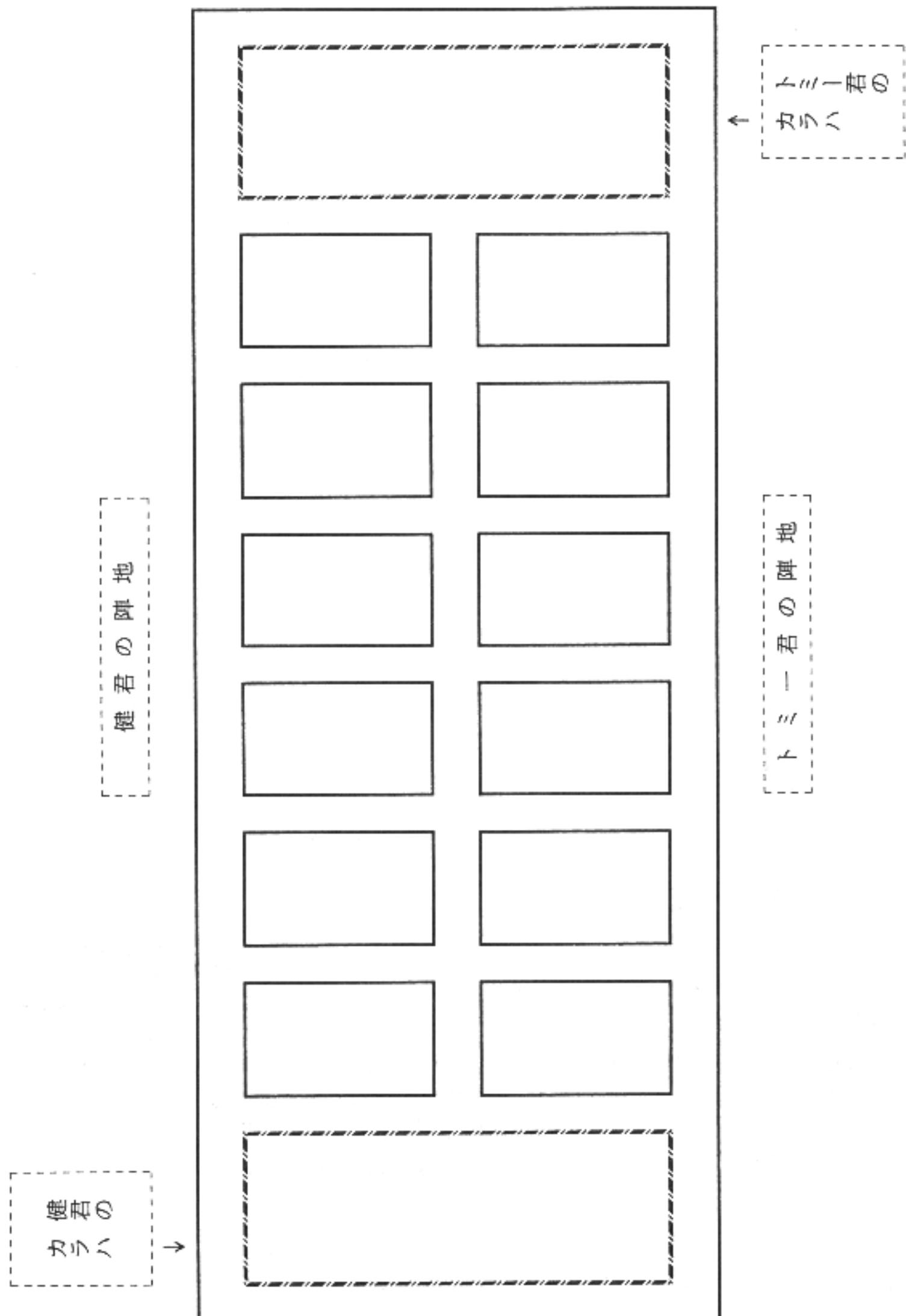
(『ジャンプロープ』上手だな)



(『マンカラ』やってみない?)

◎ やつてみよう

このマンカラの盤を使って遊んでみましょう。（資料ページに遊び方があります）



<プレイルームで>

理香 「あっ。あそこでやっている遊び。日本でもあるわ。」

ケイティ 「歌いながら2人で手を合わせる遊びね
4人でやるときもあるのよ。日本では
どんな歌を歌うの？」

理香 「『八十八夜』といって、お茶の葉を摘む歌とか色々あるわ。最初は『セッセッセッ』とかけ声をかけてやるのよ」

ケイティ 「わあ。よく似ている。」

理香 「あれっ。向こうの2人が、ひもでやっているのも、知ってるわ。日本では、『あやとり』というのよ。」

ケイティ 「あら。私たちの国だけかと思ってた。
これ、『コーヒーカップとお皿』よ」

理香 「はじめて見た形だわ。これは、わたしたちの国の『はしご』よ。」

ケイティ 「知ってるわ。私たちは、『ヤコブさんはしご』というわ。」

理香 「へえ。じゃあ、これは？日本では『ほうき』だけど。」

ケイティ 「『まほうつかいのほうき』よ。」

理香 「この『川』は、どう呼ぶの？」

ケイティ 「『ろうそく』よ。じゃあ、この『兵隊さんのベッド』は？」

理香 「たしか日本では『たんぼ』だったわ。呼び方が違うのね。どうしてかな。」



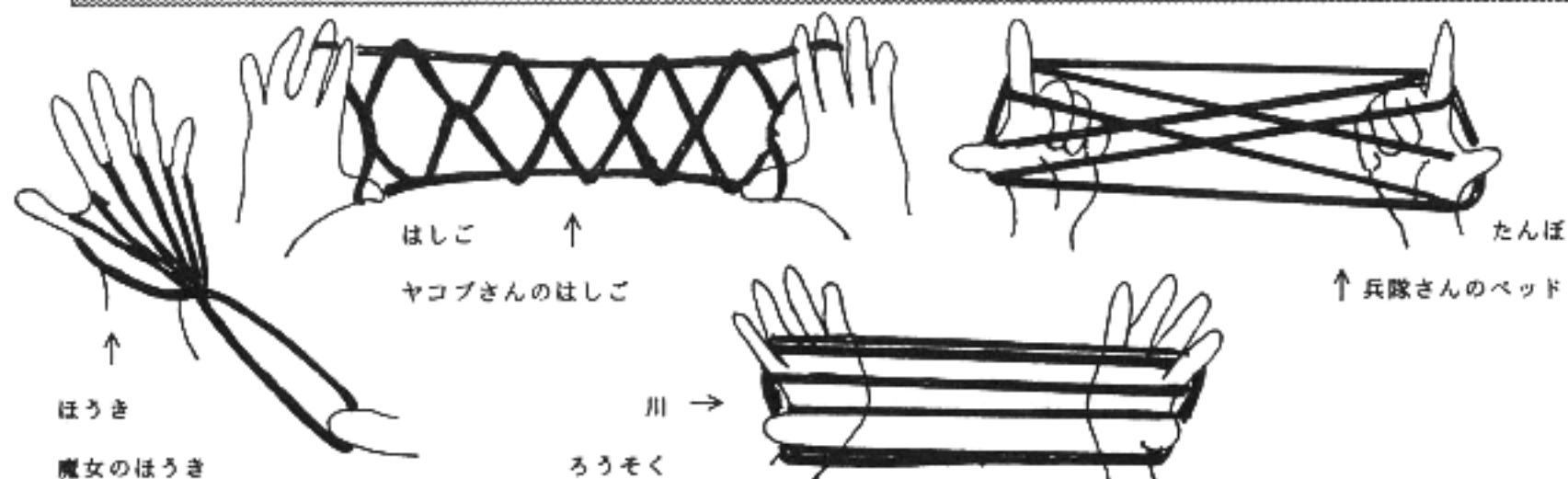
(手合わせ遊びをいっしょにやろう)



(あやとりのこの形、何に見える？)

◎ 考えてみよう

理香ちゃんとケイティちゃんの作ったあやとりです。あなたは何に見えますか。



◎ やってみよう

資料ページを見ながら、日本とアメリカの簡単なあやとりをやってみましょう。

2 マクドナルド家で夕食の時間に

夕食の時、ぼくと理香は、トミー君のお父さんとお母さんに、ボーイズ アンド ガールズ クラブで 体験したことを 話しました。

お父さん「ボーイズ アンド ガールズ クラブでは、何をしたんだい。」

理香 「あやとりや手合わせ遊びをしました。日本ととってもよくにいて、みんなといっしょにすぐ遊べました。」

ケイティ 「でも、お父さん、どうして、あやとりの呼び名が少しずつ、違うのかしら。」

お父さん 「『ヤコブさんはしご』のヤコブさんというのは、キリスト教の聖書に出てくる人の名前だね。それから、『まほう使いのほうき』は、魔法使いはほうきにまたがって空を飛ぶと昔から言い伝えられているからだろうよ。国によって、同じ形でも、違うものに見えるのかもしれないね。」

お母さん 「健君は、どうだった？」

健 「ぼくは、初めて『マンカラ』に挑戦しました。いろんな遊び方があるんですね。それと『ジャンプロープ』を2本でやるのは、びっくりしました。」

トミー 「アメリカで生まれた遊びもなかなかいいだろ？」

お母さん 「『マンカラ』『ジャンプロープ』は、アメリカで生まれたのかしら？」

トミー 「そう言われば、自信ないな。健君、明日、図書館で調べてみようよ。」

3 図書館で

今日は、トミー君とイーストカロライナ大学（ECU）の図書館で、マンカラとジャンプロープについて調べています。

妹たちは、今頃家で近くの友だちと遊んでいるはずです。



(図書館には遊びの本も多くあるね)

トミー 「健君、『マンカラ』についての本

があったよ。マンカラというのは、エジプトの言葉だと書いてあるよ。もとはアフリカの王様たちの儀式から始まったようだよ。世界での一番古いゲームの中のひとつみたいだ。それがアフリカ全体に広がって、いろいろな形やルールになったのか・・・。ぼくが健君に教えたルールは、ガーナやケニヤのやり方で、今世界で一番よくやられているマンカラの遊び方だったんだな。」

健 「ねえ、これ見て。『ジャンプロープ』の本だよ。どこで生まれたかは書いてないけど、アフリカの方でも、昔から、やっていたみたいだよ。」

トミー 「へえ。『マンカラ』も『ジャンプロープ』も、アメリカで生まれたと思っていたのに。アフリカに住んでいた人々がアメリカに移って来たとき、遊びもいっしょに来たのかもしれないね。」

健 「アメリカだけの遊びではなさそうだね。日本の遊びについても調べてみたいな。」

4 マクドナルド家の居間で

お兄さんたちが、図書館に行っている間、ケイティちゃんの友だちが家に集まって一緒に遊んでいます。今、理香ちゃんがみんなに、日本の遊びを教えているところです。

理香 「今から、日本の『折り紙』をやってみせるわね。この四角の紙で色々なものを作るから、お楽しみに。

これが、『風船』。それから『船』、『かざぐるま』・・・」

ケイティ「すごい。四角形の紙だけで、色々なものができるのね。糊もはさみも使わないで、手品みたい。」

理香 「これは、『鶴』。日本では千羽折ると願いが叶うと言われているのよ。」

ケイティ「すてき。難しそうだけど、挑戦してみるわ。教えて。」

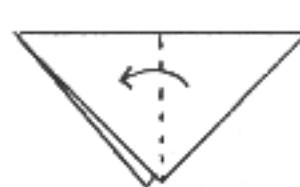


(日本の『折り紙』に挑戦するわ)

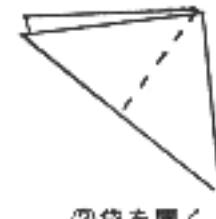


(いっしょに『鶴』を折りましょう)

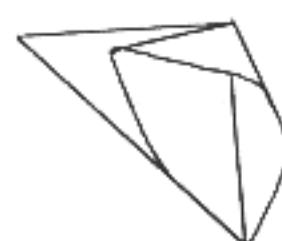
<おりづる>



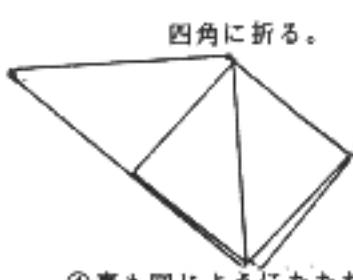
①半分に折り、もう一度半分に折る。



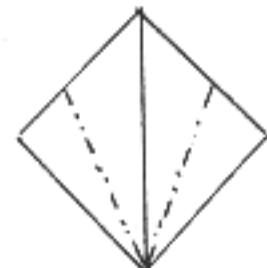
②袋を開く。



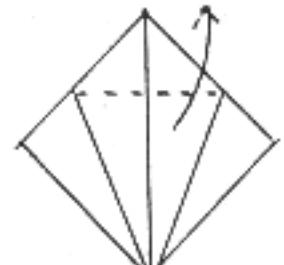
③次の④になるように四角に折る。



④裏も同じようにたたむ。



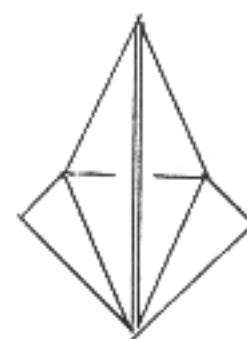
⑤まん中に合わせて折り目をつける。



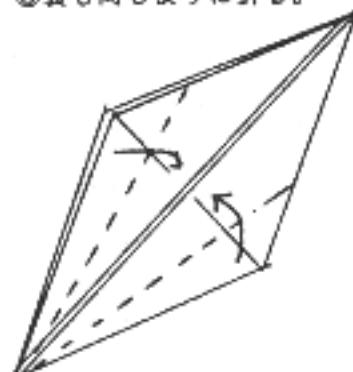
⑥折り目に沿って、折りあげる。



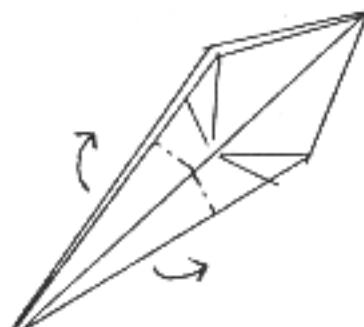
⑦左右をまん中の線に合わせて折る。



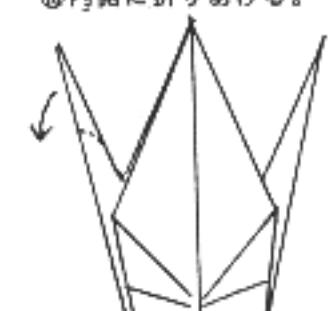
⑧裏も同じように折る。



⑨まん中で折り合させる。(裏も同じようにする)



⑩内側に折りあげる。



⑪頭を内側に折り下げる。



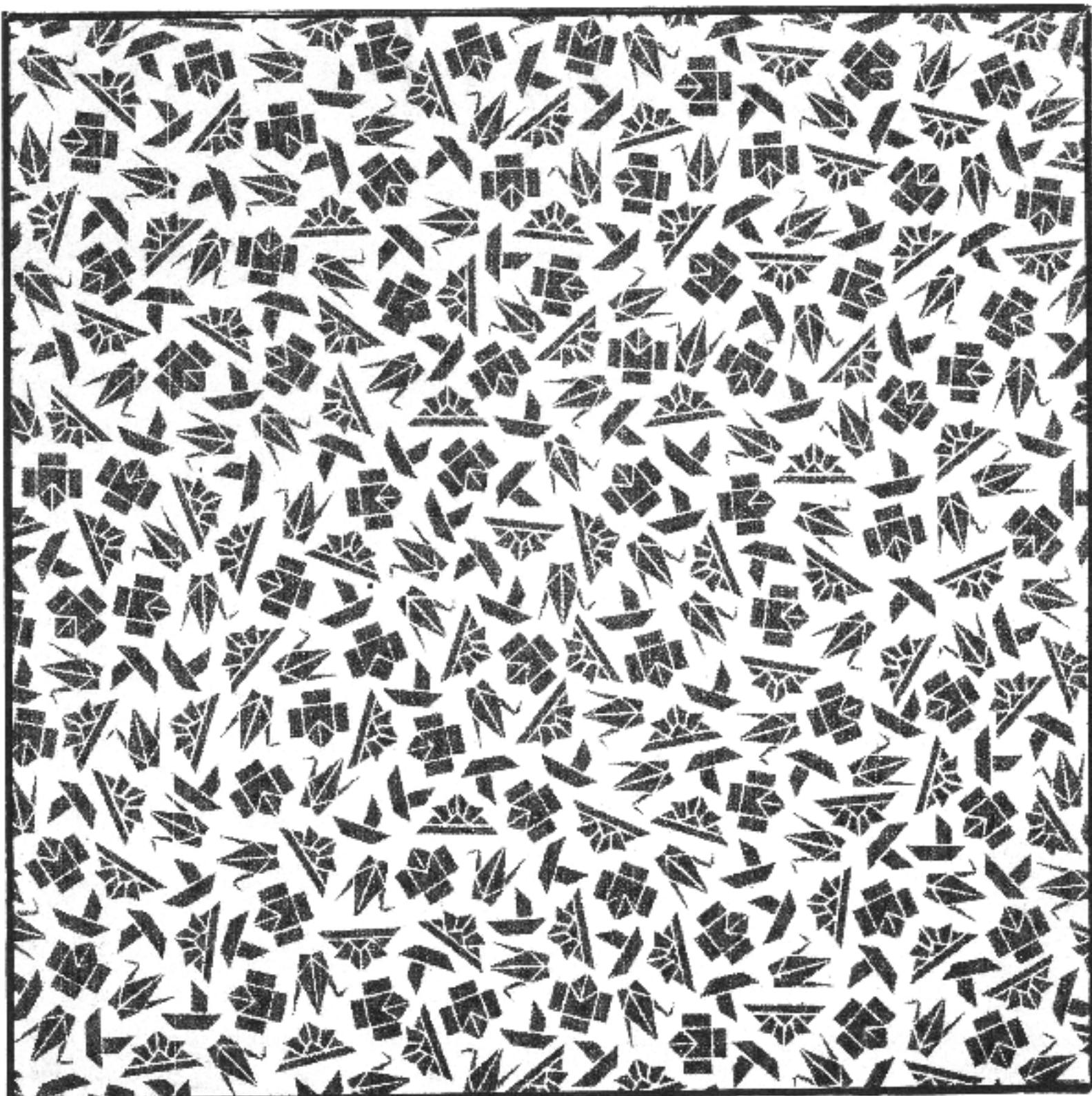
⑫羽を下に折り、腹の穴から息を吹き込んでふくらませる。

◎ やってみよう

前のページを見ながら、折り紙で鶴を折ってみましょう。

(折り方の記号は、この紙の裏側にあります。)

- ① 下の太線の所を切り取って、折り紙を用意します。
- ② 折り紙の模様のある方が、外になるように折ると美しい作品になります。
- ③ 自分で、色々な紙を正方形に切ってたくさん折ってみましょう。大きさや色の違ったすてきな鶴ができるでしょう。
- ④ もっと他のものを折りたい人のために、資料ページに折り方が載っています。やってみましょう。



折り方の記号

- 山折り線 (この線に合わせて山折りにする)
- 谷折り線 (この線に合わせて谷折りにする)
- 折り線をつける (この線に合わせて折り目をつける)
- この方向に折る

5 トミー君の部屋で

健君とトミー君は図書館から帰って来ました。

健 「あれっ。トミー君の机の上にあるのは『テレビゲーム』の本じゃないの？」

トミー 「えっ、この本のこと知っているのかい？ぼくの学校の友だちも、テレビゲームをみんないつもやってるよ。おもしろいもんね。」

健 「日本と同じだ。お母さんに『こんなゲームをやめて勉強しなさい』ってしかられてるよ。君は？」

トミー 「ぼくは、時々『部屋でこんな遊びしないで、外で元気に遊びなさい』といわれるよ。でもこのゲームはやめられないよね。一緒にやらない？」

健 「もちろんさ。テレビゲームって楽しいもんね。」



(テレビゲームの本はどちらの国にもあるんだね)

6 マクドナルド家の居間（夜の団らん）で

家族の前で、理香ちゃんが日本の写真を見せていました。

お母さん「この写真は、何をしているの？」

理香 「これは、私の友だち。生活科の授業の時間に『お手玉』をしているところです。」

お母さん「学校の授業で、昔の遊びの勉強をするのね。」

理香 「『お手玉』というのは、布の袋の中に数珠玉や豆を入れた玉です。交互に投げあげてとります。2個、3個と増やしていくと難しいけど楽しいです。」

ケイティ「今日は、『折り紙』で鶴をならったのよ。見て。」

お父さん「すばらしい。たくさん遊びを知っているんだね。」

理香 「おばあさんやお母さんに教えてもらったり、幼稚園や小学校で習ったりしました。」



(日本の『生活科』の授業で昔の遊びのお手玉をやってい るのよ)

◎ 考えてみよう

日本では、どうして昔の遊びを幼稚園や学校の授業で学習するのだと思いますか。

7 トミー君の部屋で

寝る前に、トミー君と健君が、アメリカと日本の遊びについて、話し合っています。

- 健 「近頃は、小学校で生活科という教科ができて日本の古い遊びを学習したりしているんだよ。」
- トミー 「ぼくたちは、学校で伝統的な遊びを教えてもらったことがないよ。」
- 健 「自分の国とか民族の伝統を守り伝えていくことは、大切だと思うな。」
- トミー 「なぜ、そんなことが大切かわからないな。伝統にこだわるよりも、たくさんいる民族の人たちと新しい遊びを作りながら仲良くしていく方が大切だと思うよ。」
- 健 「でも、遊びを通して、それぞれの民族の人たちの伝統や考えを知ることも、仲良くすることじゃないかな。」
- トミー 「日本にもたくさんの外国の人が生活しているんでしょう？」
- 健 「うん。近頃は、色々な国の人々が、日本に来ているよ・・・。
そうだなあ。そのような人たちと仲良くしていくために、君の国のように、一緒に新しい遊びを創り出すことは、大切だな。」
- トミー 「でも、君の言うように、アメリカにいる色々な人々の伝統や文化を理解しながら、仲良くしていくことも大切だね。」
- 健 「テレビゲームも楽しいけど・・・・。」
- トミー 「伝統的な遊びに目を向けることも・・・。」
- 健・トミー「大切だね！」

◎ 考えてみよう

トミー君か健君になったつもりで、このホームステイの体験を通して、考えたことや感想をみんなで話し合ってみましょう。

そして、色々な民族の人々が理解し合い、仲良くしていくためにはどうすればよいかについて、考えてるきっかけにしてください。

参考文献

- Jennifer Prior “The Games of Africa” Harper Festival
Louise Orlando “THE MULTICULTURAL GAME BOOK” SCHOLASTIC PROFESSIONAL BOOKS
野口 弘 『あやとりあそび』 金園社
山内路江 『おりがみクラブ』 大泉書店

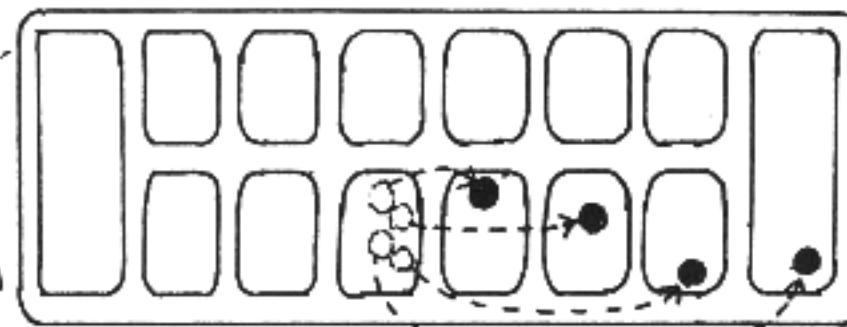
補助資料①

——もっとやってみたい皆さんのために——

1 マンカラ

マンカラにはいろいろな遊び方がありますが、ここでは、健君とトミー君がやっている簡単なやり方を紹介します。

- ① 小石かおはじきなどを、48個用意する。
- ② 二人で向き合い、石を12個の穴に4個ずつ入れる。
*このとき、大きな穴（カラハ）には入れない。
- ③ 手前の列の6個の穴と、右側の大きな穴が自分の陣地として、ゲームを始める。
- ④ 自分の陣地の好きな1つの穴を選んで、その中の石を全部手に握る。
- ⑤ 選んだ穴の隣の穴から、右回りに
手に取った石を一つずつ入れていく。
*自分の側のカラハには入れ
るが、相手のカラハに石を
入れてはいけない。
- ⑥ これを交互にやって、できるだけ
たくさんの中を集めた方が勝ち。



↑(石の動かし方)

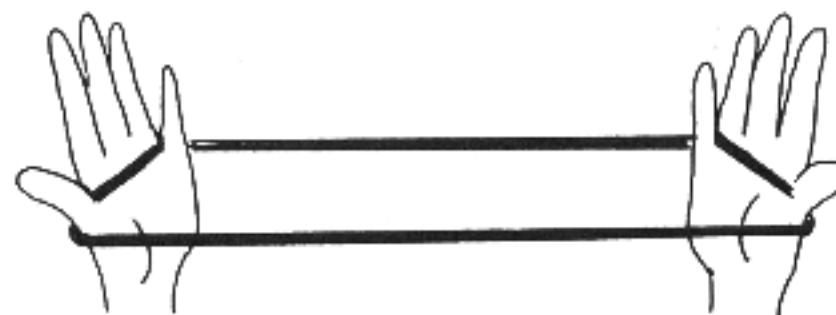
2 日本とアメリカのあやとり

日本とアメリカの簡単なあやとりを1つずつ紹介します。

- ① ひもや毛糸を用意して、
端を結びます。
- ② 両手にひもをかけます。→
- ③ 基本の形を作ります。
(日本とアメリカの形は
似ていますが、使う指が
違います。)

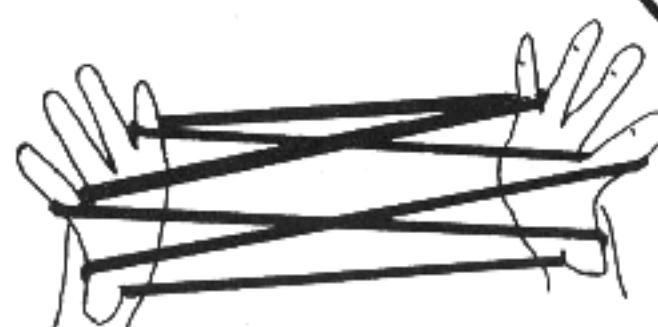
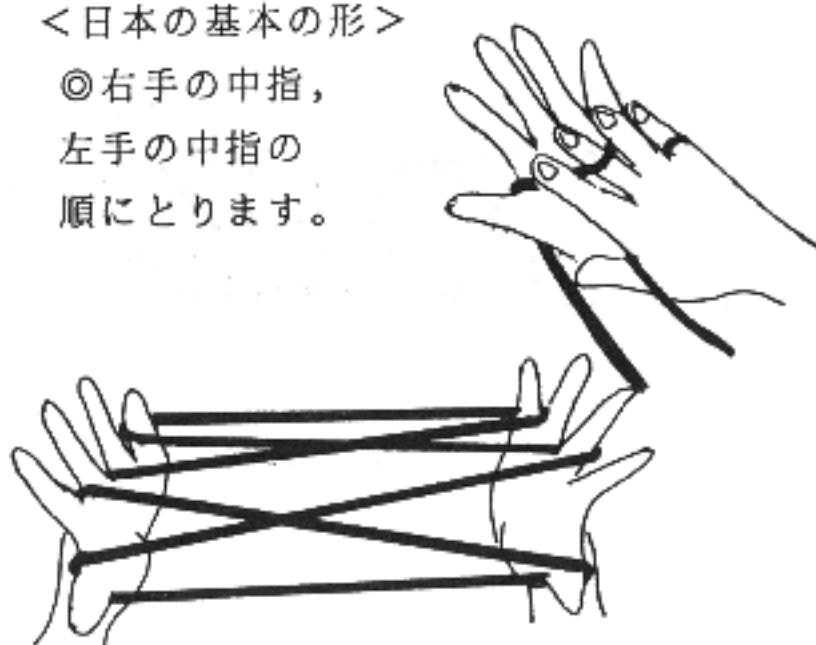
<日本の基本の形>

- ◎右手の中指、
左手の中指の
順にとります。

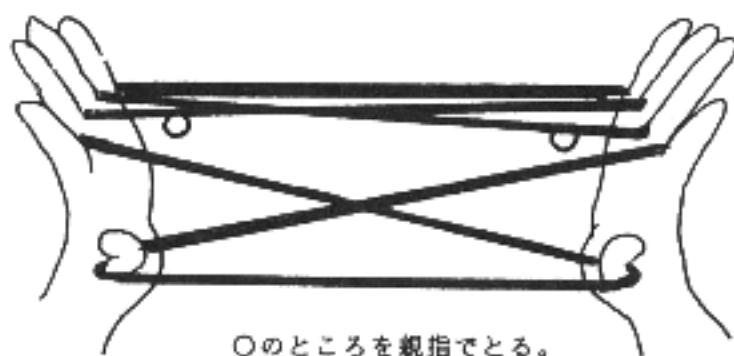


<アメリカの基本の形>

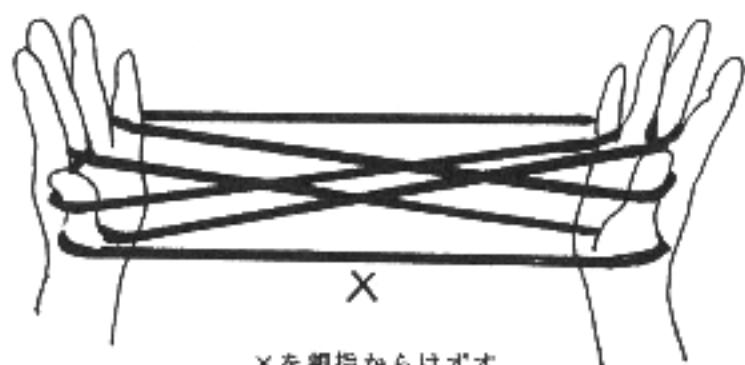
- ◎右手の人差し指、
左手の人差し指の
順にとります。



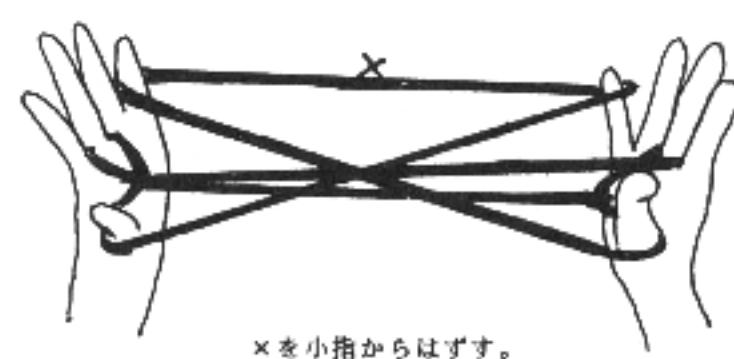
日本のあやとり
<さかずき>
 (日本の酒をのむ小さなグラス)



○のところを親指でとる。



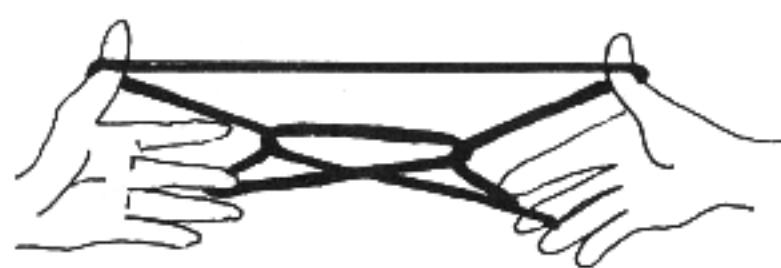
×を親指からはずす。



×を小指からはずす。

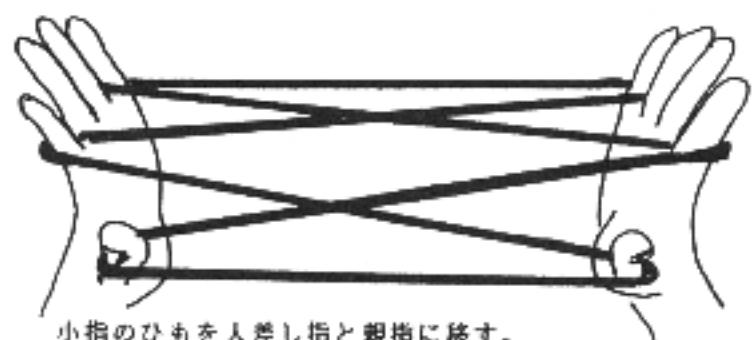


指先を向こう側に向ける

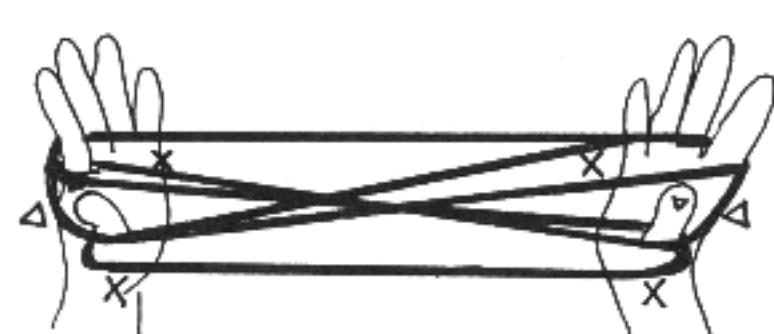


<さかずき>ができました！

アメリカのあやとり
<材木はこび>



小指のひもを人差し指と親指に移す。

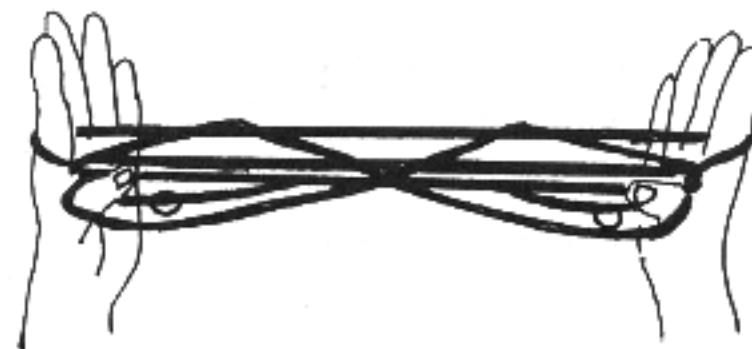


△の外側から、×を人差し指、親指からはずし、

手のひらに落とす。



○を親指で押さえる。



○を親指で↓の方向へ引っ張り出す。

手のひらを向こう側へ向ける。

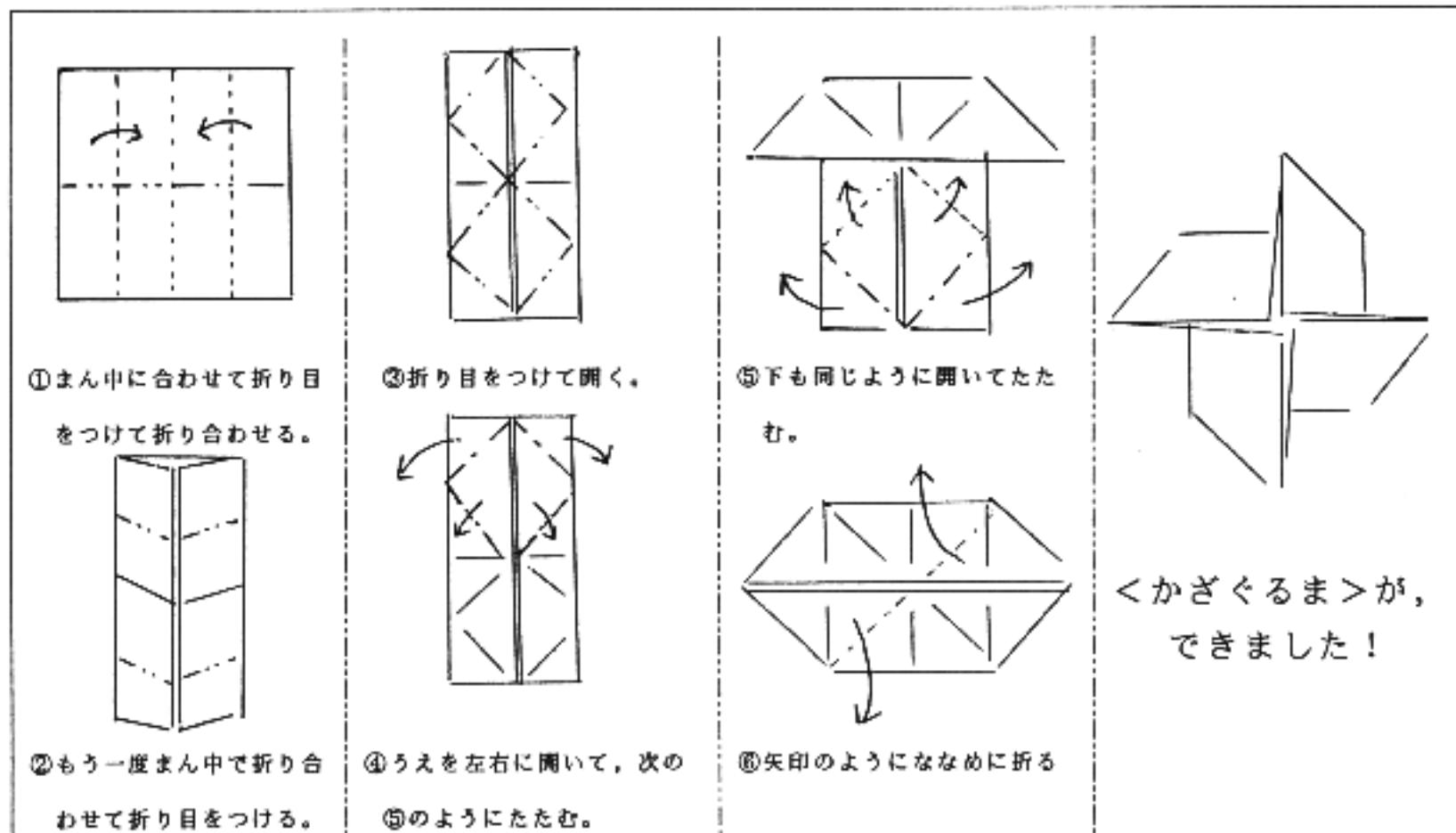


<材木はこび>ができました！

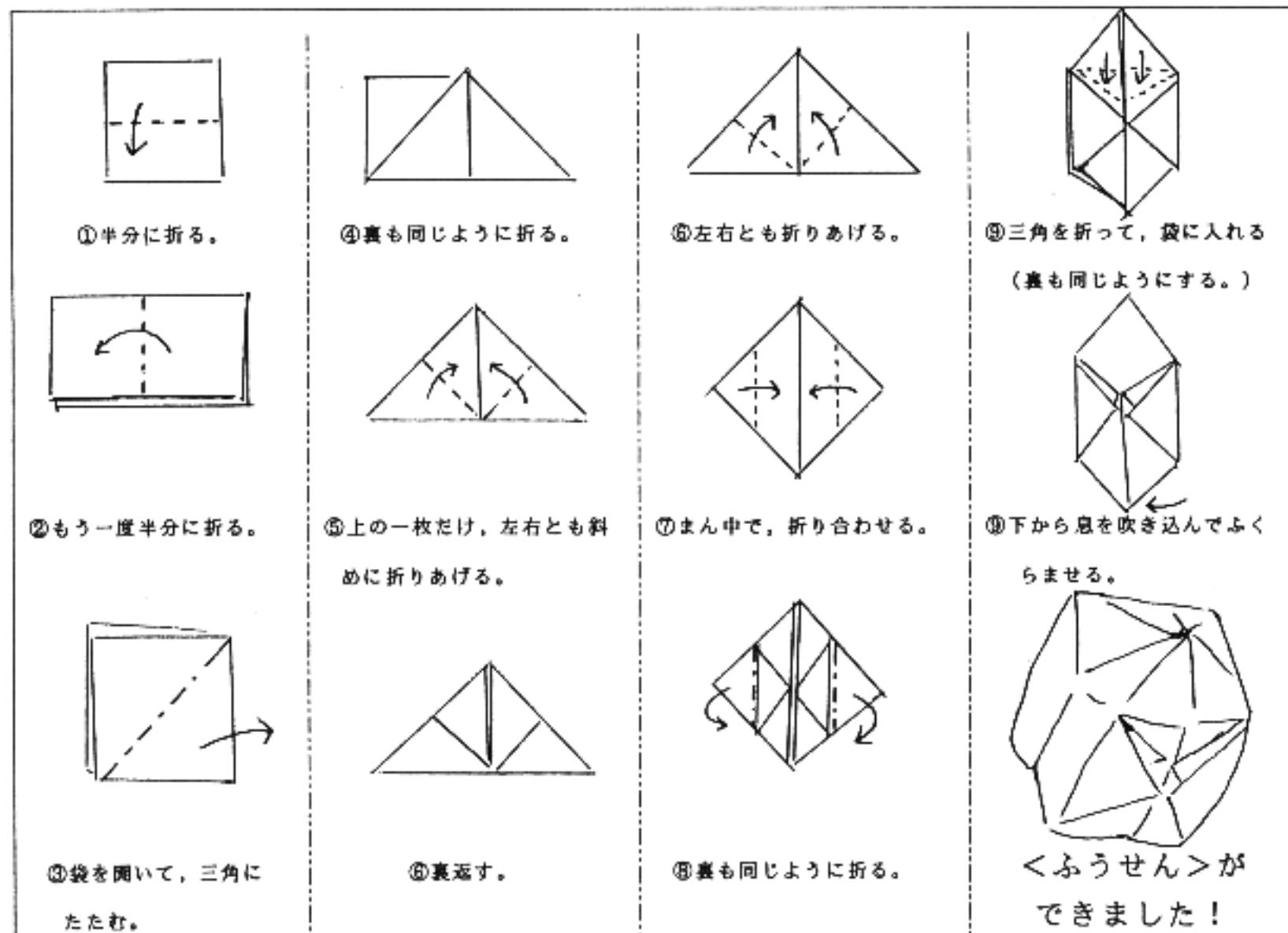
3 楽しいおりがみ

日本で子どもたちが昔からよく折って、遊んでいる形を紹介します。

〈かざぐるま〉



〈ふうせん〉



補助資料②

——先生方のために——

1 本書の活用について

この教材は、日本とアメリカの子どもたちの日を通した旅行記の形式になっています。教材の活用にあたっては、次のように考えて作成しました。

○低学年

- ・ “やってみよう”コーナーを中心に活用
- ・ 教材の中に入っている写真の説明などを、先生方に補ってもらしながら使用

○中学年

- ・ “やってみよう”コーナーを活用
- ・ 可能であれば、補助資料コーナーも使用

○高学年・中学生

- ・ 自分の力でこの旅行記を読み進める
- ・ “やってみよう” “考えてみよう”をする
- ・ 補助資料を読み、活用していく

この教材が、“調べてみよう！振り返ってみよう！”という国際理解のきっかけになればと願っています。

2 内容の補助説明

*グリーンビル



ノースカロライナ州ピット郡グリーンビル市。ECU（イーストカロライナ大学）を中心とした大学の町。

主要産業はたばこ栽培。近年、進出企業が多く、人口が増えてきている。
日本からの企業も進出し始めている。

*ボーイス&ガールズクラブ

この教材に登場するクラブは、ウイルソン郡内の最も大きいボーイス&ガールズクラブをモデルにしている。クラブの資金は企業の財団が出している。

1600人の子ども達が在籍し、自由に活用している。集団遊びやボール運動、コンピューターを活用した遊びや学習など、子ども達の興味が持続できるようプログラムが設定されている。指導者がおり、高校生は将来のスタッフになる場合も多い。またボランティアも数多く指導者として活躍している。

